



阪神・淡路大震災25年 あのとときとこれから

見つめ直す、いま



令和元年

令和2年

【入場無料】 10月11日（金）～2月4日（火）

【会場】 神戸大学附属図書館 社会科学系図書館<2階 展示ホール>
(〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1)

【時間】 月～金/8:45～21:30 (ただし1/17は17:00閉館)
土・日/10:00～19:00
(10/22,11/4,12/28～1/4,1/13,1/18,1/19は休館)

【交通】 阪神「御影」・JR「六甲道」・阪急「六甲」の各駅から
市バス36系統「神大正門前」下車
キャンパス内を北へ徒歩約5分

【お問合せ】 神戸大学附属図書館 情報リテラシー係
TEL: 078-803-5313
E-mail: literacy@lib.kobe-u.ac.jp



上:崩れた国道43号岩屋高架橋
下:復旧工事中の岩屋高架橋

撮影:前田耕作



阪神・淡路大震災25年

阪神・淡路大震災25年 あのときとこれから

神戸大学は、教育・研究とならぶ第三の使命として、地域・社会との連携協力にも力を注いでいます。附属図書館においても、所蔵する貴重な資料を多くの皆様にご覧いただきたいと考え、平成16年度から資料展示活動をはじめ、本年度で16年目となりました。

神戸大学附属図書館は、阪神・淡路大震災の被災地の中にある図書館の責務として、関連資料を収集した「震災文庫」を平成7年10月30日より公開しています。本年度は震災から25年の節目を迎えるにあたり、「あのときとこれから」をテーマに、その所蔵資料を通じて、当時の被害状況や震災の経験と教訓をご紹介します。震災の風化を防ぎ、次の大災害への備えや対策を考える機会となれば幸いです。多数のご来場をお待ちしております。

展示概要

1.写真とデータでみる震災

あのとき何が起こったのか、神戸大学はどうだったのか、年表や統計データなどをご紹介します。当時とその後の復興の様子を比較していただく写真として、六甲周辺の当時と5年後の航空写真や、附属図書館の当時と今の写真を展示していますので、実際の場所を思い浮かべながらご覧いただければと思います。



崩れた六甲道駅（撮影:大浦逸人）

2.次の世代に伝えるために

あれから25年がたち、当時を知らない方が今や多数となりました。世代交代の波の中、震災を語り継いでいくために何ができるでしょうか。このコーナーでは、町中にあるモニュメントや子供たちに向けた活動、震災をテーマにした創作など、人々の想いを後世に伝えるための取り組みを紹介します。



「しあわせはこぼる」（神戸市 防災教育副読本）

3.震災に学び、備える

予測できない大災害に備えるために、あの震災から私たちは何を学び、どのような工夫を重ねてきたのでしょうか。震災の教訓を活かす取り組みは、あらゆる場所、あらゆる方法で、今もなお続けられています。趣向を凝らした防災関連のイベントや災害に強いまちづくりに焦点を当て、特色ある取り組みの一例をご紹介します。

神戸大学主催
第7回シンポジウムポスター



ひょうご安全の日推進県民会議の「阪神・淡路大震災25年記念事業」に本資料展も登録しています。



11月1日から7日は、「教育・文化週間」です。本資料展も関連行事に登録しています。